

# 森のひろば

近畿中国森林管理局

大阪市北区天満橋 1-8-75

〒530-0042 TEL 050-3160-6763

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp>

## 国有林モニター会議を開催



間伐を体験後、切り株に興味深く見入る参加者

### INDEX

- 02 平成19年度 国有林モニター会議  
-企画調整室-
- 03 地域管理経営計画等有識者懇談会を開催  
-計画課-
- 04 地域に役立つ情報発信の新たな拠点として  
-岡山森林管理署-
- 05 中国山地最西端の盟主  
寂地山を頂く「寂地国有林」  
-山口森林管理事務所-
- 06 各署等の取組・行事の紹介
- 07 広報紙 創刊から70年
- 08 私の意見  
先人が築いた森をさらに豊かな森に  
三重県大台町長 尾上 武義

3月7日、大阪府箕面市の箕面国有林において、管内の国有林モニター（71名）の代表13名が出席し、「国有林モニター会議」を開催しました。

【関連記事は、2頁】



この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を使用しています。

# 平成19年度 国有林モニター会議 森林・林業に関する幅広い意見続々と

企画調整室

今年度のモニター会議では昨年、箕面森林環境保全ふれあいセンターにおいて開発した「森林環境教育プログラム」の一部としてヒノキの間伐と丸太切りを体験してもらったほか、里山整備モデル林での現地説明を行いました。現地見学後、箕面ビジターセンターで意見交換会を開催しました。モニターの方々からの意見要望は次のとおりです。



箕面ビジターセンターでの会議の様子

【森林・林業、国有林のPRについて】

★緑の募金については町内会が徴収しているがPR不足であり、また整備した結果についても伝わってこない。

★県や市はふれあい関係や森林整備についてPRを積極的に行い、県民や市民にうまく伝えていくが、国の方からそのような情報の提供を受けたことがない。森林管理署と自治体が連携したイベントなどについても、案内がいつも県や市から来るのは残念である。

★地球環境保全やCO2削減の重要性を広く知らしめなければいけない。PRチラシなどを準備し、事業所に配布する等、参加したボランティア自身にも自分達の取り組みの意義と成果が伝わるようにしてほしい。

【森林環境教育について】

★森林環境教育については「子供じみている」という印象を持って

いたが、小さい頃から環境教育を行うことが成長過程で重要であることを知った。

★各機関が連携して働きかけを行うことが重要であり、継続的な取り組みを行ってほしい。また、その際には森林インストラクターをもっと活用すべき。

★子育て支援センターに備え付けのおもちゃは、プラスチック製と木製のものがあるが、子どもに人気が高いのは木製でいつも取り合いいになっている。このような施設と連携して、木製品を供給できないか。

【森林ボランティアについて】

★県はボランティアの技術向上などに積極的に取り組んでいる。こ



れほど環境に関心の高い現在、国が行うべき施策は沢山あると考えるので、今後は、国も同じよう

に取り組んでほしい。  
★ボランティアの動員は各自予定があったり、継続性という意味で難しいことも多いので、これからは民間ボランティアだけに頼るのではなく、企業の力を使うことも考えないといけない。

【その他】

★緑のオーナー制度について、先の見通しが出来なかった、あるいは外材輸入により状況が変わったという面もあるが、今回のことを反省し、対策を施し、今後の事業運営を行って欲しい。

★大規模林道については非常に悪いイメージがある。現地を何度も通ったが、舗装した大規模な林道が本当に必要なのか。

モニターの方々からいただいた意見・要望につきましては、今後の事業運営に反映させていくよう取り組んでいくとともに、双方向の意見交換ができる工夫など、モニター制度の拡充にも努めていきたいと考えています。

# 地域管理経営計画等 有識者懇談会を開催

## 計 画 課



懇談会の様子

## 百年先を見通した森林づくりの推進と

## 国産材の復活を目指して

3月10日、局大会議室において、「平成19年度地域管理経営計画等（注）有識者懇談会」を開催しました。

今回策定した計画区は、若狭（福井県）、尾鷲熊野（三重県）、湖南（滋賀県）、淀川上流（京都府）、大和・木津川（奈良県）、斐伊川（島根県）、吉井川（岡山県）、萩（山口県）の8森林計画区と、地球温暖化の防止に向けた森林整備のために間伐等を追加した9森林計画区の変更について、13名の委員の方から意見等を頂きました。

- 今回の計画策定の重点テーマとして
- 木の文化を支え歴史を未来につなぐ森林づくり（京都市内の世界文化遺産貢献の森林の設定方針等の見直し）
- 民有林と連携した森林づくり（島根県内における民有林などと連携した森林共同施業団地の設定）
- 間伐による健全な森林づくり（地球温暖化防止のための間伐の推進など）
- 公益的機能を重視した森林づくり（伐採時期の長期化）
- 国民参加の森林づくり（ボランティア団体等による森林整備のための

フィールドを提供する「ふれあいの森」の設定）

○ 森林環境教育のための森林づくり（学校教育の中で自然と親しむ「遊々の森」の設定）

○ 優れた自然環境を有する森林づくり（森林生態系や遺伝資源を保存するための保護林の設定・保全）

○ 会議においては、各委員からの活発な意見を頂き、これらの意見を踏まえ、本年4月から計画を実行することとしています。



世界文化遺産貢献の森林に設定している  
京都 嵐山国有林

なお、主な意見等については、近畿中国森林管理局ホームページをご覧ください。  
<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/>  
kyoku/

### 地域管理経営計画等とは

#### ○ 地域管理経営計画

国有林野の管理経営に関する基本的なことについて森林計画区（近畿中国森林管理局管内では38計画区）ごとに策定する5年間の計画です。

具体的には、次の事項について策定します。

- ・ 国有林野の取扱の基本的な考え方
- ・ 国有林野の維持保存に関すること
- ・ 木材等の供給に関すること
- ・ 地域における産業の振興、国民の福祉の向上等への国有林野の活用
- ・ ボランティア団体等国民の参加による森林整備に関すること
- ・ 林業技術の開発、指導及び普及に関すること

#### ○ 国有林野施業実施計画

箇所別に、今後5年間の伐採、更新等の保育及び林道、治山の事業量を定める計画です。

これらの計画については、国民の皆さまの意見を反映させるため、30日間の公告縦覧を行い、関係府県知事、関係市町村長、学識を有する者の意見を聴き、策定することとしています。



# 地域に役立つ情報発信の新たな拠点として

## 県産材をふんだんに使用した 「岡山森林管理署」新庁舎

2月29日（金）岡山森林管理署の新庁舎が落成しました。

旧庁舎は、昭和32年の新築以来、50年にわたり森林管理署庁舎として使用してきましたが、老朽化が著しいことに加え、国有財産の有効利用の観点からも、現行組織に即応した適正規模にする必要があること等から、この度新築を行ったものです。

新庁舎は、木造軸組の2階建て、国産材の需要拡大とPRを図るため、岡山県産のスギ、ヒノキを主体に木材は、すべて乾燥材で、合法性・持続可能性が証明された木材（フェアウッド）を使用し『人と環境に優しい「木材」の特性を活かした建物』となっています。外観は、「城下町津山」の町並みとの調和に配慮し、黒い切妻屋根、外壁は白く、適所にアクセントとなる庇を設けるなど、より雰

囲気を保つようなデザインの工夫がなされています。内部においては、ホールにスギの丸柱を使用し、廊下、会議室のフローリングには岡山県産の台形集成材を用いるなど、木の温もりを感じさせる空間となっています。

また、暖房にはペレットストーブを導入し、バイオマスエネルギーの利用促進にも配慮したほか、事務室のOAフロアの採用、バリアフリーの徹底など様々なアイデアを盛り込んだ建物となっています。

岡山県産材の木の香漂う新庁舎には是非お立ち寄り下さい。

### ◆建築のあらまし

構造：木造一部2階建て

建築面積 334.544㎡

（延べ床面積 473.218㎡）

木材使用量

構造材 71.3㎡

造作材 13.9㎡

合計 85.2㎡

CO<sub>2</sub>の吸収固定量 34.0 ton-CO<sub>2</sub>

### 岡山森林管理署へのアクセス



玄関先のピロティの丸柱は岡山署の遠藤国有林から産出されたスギを使用しています。



ホールに配置されたスギ丸太が、木の温もりを感じさせる空間を演出しています。



2階会議室には、岡山県産材の台形集成材の腰板とフローリングを使用しています。

## 中国山地最西端の盟主

### 寂地山を頂く「寂地国有林」

山口森林管理事務所 ②⑥

山口県岩国市(旧錦町)に所在

する寂地国有林は、主峰寂地山(標高1337m)を頂点とし、山口・広島・島根の3県に跨る山岳地帯に位置しており、その山岳景観と渓谷は絶景であり西中国山地国定公園に指定されています。面積は、約259haで、山頂付近に自生するブナ群落(77ha)は「寂地山ブナ植物群落保護林」に指定し、その周囲の天然スギと落葉広葉樹を主体とする混交林(45ha)は「寂地風景林」として保護・管



寂地山山頂

理を行っていきます。

この県下随一の高峰寂地山に源を発する錦川の最上流「寂地川」にある犬戻峡・龍ヶ岳峽を総称し寂地峡と呼びます。日本の滝百選に指定された五龍の滝(龍ヶ岳峽)や犬戻の滝(犬戻峽)などの大小様々な滝があり、奇岩・怪岩の変化に富んだ景観と、名水百選に指定された清流はあくまで澄んでおり国定公園内屈指の景勝地であることから、自生するカタクリが開花する4月の下旬頃から紅葉シーズンにかけて県内外から多くの登山者・観光客等が訪れています。



五龍の滝の一つ「龍頭の滝」

ここで、寂地の由来として、『寺床の原』と呼ばれる地域に伝わる史話民話を紹介します。「大昔、このあたり一帯の里人を苦しめる大蛇がいた。七尾七谷に体を横たえ、一度動けば峰の草木は倒れ、その息吹に花や木は枯れ果て里人を悩ませていた。ある日、「寂仙坊」と名乗る旅の僧が現れ里人の災いを救わんと、21日間に渡る大蛇退散の祈禱を続け、見事に大蛇を退治した」ことから、「寂地」の名前がついたといわれています。

多くの方々から親しまれている寂地山ですが、そ



保全活動の様子とカタクリの花

の一方でカタクリの自生地への登山者の入り込みにより貴重な植物が失われつつあり、その保護対策が必要となってきました。このため当所では、県・地元ボランティア団体と連携し、自生地への侵入を防止するための柵の設置や登山者への呼びかけなどによる保全活動を行っています。

今後とも、これらの活動をはじめ地域の関係者と連携し、「寂地国有林」の素晴らしい森林環境の保全に努めていきたいと考えています。

#### ◆寂地山へのアクセス

公共交通機関を利用する場合は、錦川鉄道錦町駅から岩国市宮錦バス寂地峡行きで1時間、寂地峡下車すぐ。

車の場合、中国自動車道吉和ICから国道186号を経由し、国道434号を錦方面へ車で16km、中国道六日市ICからは187号線を経由し、国道434号を吉和方面へ車で31kmと東西方向からアクセス出来ます。

〒七五三〇〇九四

山口市野田三五一

TEL〇五〇一三一六〇一六五五

FAX〇八三一九二二三四六三一

http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/yamaguchi

## 各署等の取組・行事の紹介

### 嵐山国有林で「第27回 嵐山

### 植林・育樹の日」を開催

【京都大阪森林管理事務所】2月25日（月）に、嵐山国有林において、「嵐山植林・育樹の日」を開催しました。この「嵐山植林・育樹の日」は、名勝「嵐山」で、松枯れの拡大によりアカマツが減少するとともに、広葉樹の成長によりヤマザクラが被圧されつつあることから、嵐山の往事の姿の復活に向けて、昭和57年から毎年2月25日に「嵐山保勝会」と連携して開催している植樹行事で、今回で27回目となります。



「嵐山植林・育樹の日」への参加者

当日は、嵐山保勝会の皆様のほか、京都府、京都市、林木育種センター関西育種場などから37名の参加がありました。当所からは、福田所長をはじめとして、11名の職員が運営に当たりました。

開会式では、小雪のちらつく中、福田所長が、嵐山での植栽を始めて丸26年となるが、「往事の嵐山の復活」にはまだまだ道半ばといった感がある、今後、これまでの植樹の成否を改めて現地を確認するとともに、嵐山の現状に対する理解を深めるような取組を進めていきたい旨開会の挨拶を述べました。続いて、石川嵐山保勝会副会長より共催者として挨拶が、松下京都府林務事務所長並びに高橋京都市林業振興課長より来賓を代表して祝辞がありました。

開会式終了後、嵐山モンキーパーク内の急な坂道を15分程登って、国有林内の植栽箇所に向かいました。植栽箇所では、参加者により、マツノザイセンチュウ抵抗性マツの苗木60本とヤマザクラ及びイロハモミジの大苗各10本ずつを植栽しました。前日から当日早朝にかけて雪が降ったことから、植栽箇所には若干の積雪がありま

したが、作業を進めるにつれて晴れ間も出るようになり、作業を終える頃には、おおむね雪も消えてしまっていました。

作業終了後、藪内上席調整官より閉会の挨拶があり、植樹行事を終了しました。

### 加賀海岸林で植樹祭

【石川森林管理署】2月21日、浜山国有林（加賀市黒崎町）において、植樹祭を開催しました。

当国有林は、加賀海岸自然休養林、越前加賀海岸国定公園等に指定されており、優れた自然景観を形成し、市民から親しまれている森林です。

しかし、近年、松くい虫の被害



抵抗性クロマツを植樹する児童

が目立ち、景観が損なわれると同時に防風保安林としての機能も低下しつつあるため、松くい虫防除対策事業や海岸防災林造成事業を実施し機能の回復に努めているところです。

その取り組みの一環として、平成17年度から植樹祭を実施しており、今年度は地元住民や自治体・団体等の関係者約170名が参加し、500本のマツクイムシに抵抗性があるクロマツを植栽するとともに、植栽木を風害や潮害等から保護するため、植生保護管を設置しました。

参加した橋立小学校の児童は「大変楽しい、もっと植えたい」と急斜面にも関わらず、かけ回っていました。

### レク森管理運営協議会にボラティア団体加入

【滋賀森林管理署】3月6日、大津市と栗東市にまたがる近江湖南アルプス自然休養林（一丈野地区）の保全や管理に取り組む管理運営協議会（代表 宮浦富保龍谷大学教授）が開催されました。

管理運営協議会は、本自然休養

林及び周辺区域を対象に、自然環境の保全や森林レクリエーション利用の推進を目的として、地元7団体により昨年3月に設立され、平成19年度は、ゴミなしくリーン作戦やスタンプリーパー等を実施してきました。

管理運営協議会では、これまでの活動結果や平成20年度活動計画について活発に意見を交わしました。今回は、本自然休養林を活動拠点として自然環境美化や自然観察等を行うボランティア団体NS（ネイチャーサポート）滋賀（平成20年2月設立）が新たに会員として加わり、協議会活動が一層発展することが期待されています。当署は、協議会及びNS滋賀との連携を密にして、自然休養林のメンテナンス対策に取り組んでいきます。



新たなメンバーが加わり活動が期待される協議会

## 広報紙 創刊から70年

南海高島屋で開催された木工品展覧会  
右上が平岡局長（10号から）



展覧会（高島屋屋上）での製炭実演  
（10号から）



当時の庁舎に掲げられた愛日アドバース（3号から）

昭和13年3月1日。

大坂営林局報第1号が発行されました。

当時の営林局長は作家三島由紀夫の父、平岡梓氏でした。

それから70年。国有林の情報紙として皆様に親しみやすい広報紙となるべく、幾度かの名称変更などを経て現在は「フォレストニュース 森のひろば」として発行しています。

今後とも、「フォレストニュース 森のひろば」をよろしく願います。



局報第1号表紙

## 私の意見

# 先人が築いた森をさらに豊かな森に

三重県大台町長 尾上 武義



平成18年1月10日に大台町と宮川村が合併し、人口約1万1000人、面積362.29㎢の新大台町が誕生しました。三重県の中南西部、南三重の玄関口に位置し、台高山地、大台ヶ原を源とする、県下最大の一級河川宮川が伊勢湾に注ぎ、宮川上流部は四方を1000m級の山々に囲まれ、その山間に47の集落と耕地が点在する農山村です。気候は、南海型気候区に属し、年中温暖で年平均気温は15.5度で積雪を見ることは高地を除いてはまれであり、年間降水量は平均3063㎜で大台ヶ原では5000㎜に達することもあります。町域の一部が吉野熊野国立公園と奥伊勢宮川峡県立公園に抱合され、中でも清流宮川は国土交通省による全国1河川の

水質調査で過去5回も日本一に輝いた私たちの自慢の川であり、鮎の美味、蛍の鑑賞など町民は心のよりどころにくつろぎの世界を捉まえています。

しかし、平成16年9月29日の台風21号は、清流宮川を濁流に変え、町は甚大な被害を受けました。宮川地域では大規模な山地崩壊や土石流で7名の犠牲者を出すとともに、145棟の家屋の損壊を始め、道路や水道施設、河川、農林業施設、通信施設などに未曾有の被害が発生し、今なお河川には膨大な土砂の堆積と河川の植生が剥離するなど、かつての景観が失われてしまいました。

災害を受けたものの、豊かな自然に恵まれた大台町ですが、近年の少子・高齢化の進行や地方分権の推進などにより、町を



宮川上流の千尋滝

取り巻く環境や役割りは大きく変化してきており、こうした情勢に的確に対応していくためには、これまでの仕組みを見直すとともに、新しい時代を創造する力が求められています。私たちはこの宮川と向かい合い、長い歳月を暮してきました。再び町民生活の安全が確保しつつ、復活、復興に向けて全力で立ち向かっているところであります。

大台町の美しい自然環境を守るために、必要なこととして、まず森林の環境保全が挙げられます。森林は本来水源涵養・土砂流失防止・二酸化炭素吸収による地球温暖化の防止・野生鳥獣の生息の場や人々のレクリエーションの場の提供といった公益的な機能を持つ、いわば、【緑のダム】です。この、緑のダムが近年の林業の生産性の悪化により生産活動の低下や林業従事者の高齢化や減少が進み、森林全体の機能の低下が大きな課題となつてきております。大台



ボランティアによる植樹活動

町では、森林は複数の機能がひとつの森の中で複雑に絡み合っていることに着目し、森林の多面的機能を高めることを重視した環境林と、生産性を重視する生産林に森林ゾーニングを平成13年に県内の市町で最初に実施しました。この考えに基づき、今まで、ほとんど手入れされていなかった奥山の森林は強度の間伐を積極的に実施し、本来の機能が発揮できるよう効率的または効果的に森林管理を行ってまいりました。生産林では、搬出のための簡易な作業道の整備と高性能機械による利用間伐をただいま積極的に推進しております。間伐材の利用促進については、17年度から川下の建築士の方にも協力いただき木造キット住宅を開発し、町内の道の駅において安価な間伐材利用住宅のPRを積極的に行ってまいりました。すでに、町内で2棟、町外で5棟の販売実績がございます。今後とも安価で丈夫な国産材木造住宅に良さをPRし、間伐材の利用拡大を図ってまいりたいと考えております。16年の災害後に企業や団体の方々から災害現場に、植樹のボランティアを行っていただいております。植樹する苗をできる限り地域のものを使用したいと、植樹用苗木の栽培グループも立ち上がりました。私たちは、先人が築き上げた、森をさらに豊かな森として、後世に伝えていく責務があります。最後になりましたが、大台町の最上流に位置する国有林野につきましては、国民の財産として公益的機能の増進や地球温暖化防止策等、率先した森林管理をお願いするものであります。